

1. 科目名(単位数)	図画工作Ⅱ(小) (2単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	片岡 浩		
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>図画工作Iにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通用する幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を追求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」とはならず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題作品提出 2. プレゼンテーションおよび資料(写真)の提出 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 使用しない</p> <p>【参考書】 『カラーコーディネーター入門 色彩』 日本色研事業株式会社。</p> <p>適宜資料を配布します。作品制作のための道具、材料は事前に指示しますので各自で用意してください。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。 2. 発達段階における造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。 3. 児童の豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 総合点の20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の30% 3. 制作や鑑賞活動の成果(ポートフォリオ等) 総合点の30% 4. 課題(作品発表、レポート等) 総合点の20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ものづくりや表現を「楽しみ、身につける」体験をしてください。 2. 指示されたノルマやプログラムをただこなすのではなく、「失敗しても構わないので」自分の興味関心を大切に、自ら考え工夫し判断しながら自由な心で取り組む習慣を身に付けていってください。 <p>※授業日程は実習の進行状況によって調整する場合があります。</p>		
13. オフィスアワー	※ 現在、時間割曜日未定		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<p>オリエンテーション(授業内容、目的、評価、用意するものなど)</p> <p>【必要な道具】 必要な道具は前週に指示する</p> <p>【学習の取り組みについて】</p>	事前学習	美術・芸術作品に親しむ為、NHK日曜美術館などメディアを通した美術・芸術鑑賞を行う。
		事後学習	過去の作品制作体験を振り返り、図画工作でやってみたいことのイメージを膨らませ7/A7/Aをクロッキー帳に描きとめておく。
第2回	<p>写真撮影(顔名簿)をおこなう</p> <p>五感を働かせながら素材の特性を活かした表現①</p> <p>「にぼし」をつくろう</p> <p>【必要な道具】 絵具、カッター</p>	事前学習	好きなもの・興味のあるものの特徴を観察し、クロッキー帳に描く(書くのではなく描く)。
		事後学習	①ネガ・ポジ視点でモチーフを観察して描く。 ②「マーブリング」「ブラッシング」「フロッタージュ」「デカルコマニー」「ステンシル」など関連した技法について調べ比較しまとめる。
第3回	<p>五感を働かせながら素材の特性を活かした表現②</p> <p>a. 絵の具と水と紙の特性を活かし、見えた色を表現する</p> <p>b. 絵の具と水と紙の特性を活かし、匂いを色で表現する</p> <p>【必要な道具】 のり、はさみ、絵具</p>	事前学習	五感をとおした実体験において、今までで印象に残っていることをクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する。
		事後学習	様々なモチーフを授業と同様に、五感で体験し、クロッキー帳に自由に表現し描く。
第4回	<p>五感を働かせながら素材の特性を活かした表現③</p> <p>触覚のみで立体表現を試みる</p> <p>【必要な道具】 のり、はさみ、絵具</p>	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	①スクラッチ技法について調べる。 ②異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する。

第5回	五感を働かせながら素材の特性を活かした表現④ ダンボール造形 ダンボールの特性を活かした造形 曲げる、切る、折る、破る、はく、組み合わせる、 等 マスキングテープで組み立て 【必要な道具】のり、はさみ、絵具	事前学習	「ルビンの壺」や白抜き描法でモチーフを意識的に観察する。
		事後学習	「作品」に対する意識を高め、造詣を深め、興味・関心・創作意欲を養う為に、ジユンク堂や図書館などで美術・芸術の情報に触れたり、銀座のギャラリー巡りを体験する（研究室前に展覧会情報が掲示してあります※ギャラリーは基本的には入場無料ですのでマナーを守って鑑賞しましょう）。
第6回	五感を働かせながら素材の特性を活かした表現⑤ ダンボール造形 スポンジによる着色 【必要な道具】のり、はさみ、絵具	事前学習	各自で画材と紙の関係性を探りながら表現の可能性を探る。
		事後学習	表現活動におけるコンセプトやテーマの意味合いを探り、各自でまとめる。
第7回	『伝承的物語～語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる① アレンジメントとプレゼンテーションの学習 a.グループ分け（4名づつ） b.グループAは「昔話、童話」などを題材にして他グループへの制作指示依頼書を作成する（課題づくり） c.グループA（2名）はグループB（2名）に対し、課題のプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。グループB（残り2名）はグループA（残り2名）へ課題プレゼンおよび質疑応答を同様に行う。 絵具、段ボール、色紙など自由に使用する	事前学習	①「アレンジメント」について調べ、授業において活用すること。 ②「出来ないかもしれない」「こんなこと言っていないのか」などの否定的思考を排除した、自由で楽しい発想力を身に付け養うために、個人やグループで「アレンジメント」や「プレゼンテーション」の学習に積極的に取り組むこと。
		事後学習	（授業の続き） ④各グループは与えられた課題を自分たちの解釈を加え、アレンジして制作に取り組む（作品の題名、登場人物、キャラクター設定、場面状況設定、小道具、表現方法、工夫点など）。 ⑤グループごとに、斬新かつ独創的な様々なアイデアや意見交換を記録し、それを元にさらに新しい発想、新たなアイデアを創出していく。
第8回	『伝承的物語～語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる② 登場人物・アイテムの設定・白抜きデザイン	事前学習	①完成までの作業工程計画を具体帝にイメージし表にする。
		事後学習	①「白抜きデザイン」に取り組む。 ②「白抜きデザイン」にグループで取り組む。 ③道具の扱い方を知り体験的に身に付ける。 動線確保・安全作業について、機械工具の特性と使用方法についての認識力を養う。
第9回	『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる③ 電鋸ノコの使用の確認 動線の確保の説明 電ノコ・糸鋸による制作1 板取り 【安全への注意と配慮】	事前学習	
		事後学習	実習を通して安全確保のための身だしなみへの配慮と動作についての意識を養うこと。
第10回	『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる④ 電鋸による制作2 ペーパーやすりの扱いについて #120でカット面やすりと面取り #400で磨き仕上げ 【板・ペーパーやすり#120・#400】 【安全への注意と配慮】	事前学習	班ごとにホームセンター等で必要な道具を購入すること。 【必要な道具】 木工用ペーパーやすり#120、#400
		事後学習	①技能とコツについて深く考察・分析し、身につけるように取り組むこと。 ②実習において気が付いたこと、工夫したこと、上手くいかなかったことがあればその原因を分析し記録し次回にいかすこと。
第11回	『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる⑤ ペーパーやすり仕上げ 人形・小道具仕上げ 色彩計画・着色・仕上げ	事前学習	道具・材料の準備 素材の特性を活かす仕上げ法と表現について考察する。 【必要な道具】絵具
		事後学習	デザイン・色彩計画に取り組む。
第12回	『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる⑥ 人形・小道具仕上げ 色彩計画・着色・仕上げ	事前学習	デザイン・色彩計画に取り組む。
		事後学習	話合いながら舞台のデザインに取り組む。
第13回	『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる⑦ ダンボールを使って舞台をつくる 【50cm×50cmダンボール2枚、A3用紙2枚】	事前学習	舞台のデザインに取り組む。
		事後学習	台本作成と役割分担に取り組む。
第14回	『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる⑧ 台本作成と練習	事前学習	台本作成と役割分担に取り組み練習を行う。
		事後学習	舞台上演打ち合わせと練習に取り組む。
第15回	【表現と鑑賞の時間～上演！会～】 各グループごとに発表 1班ごとに準備&上演で15分 各班は「まとめレポート」を提出する	事前学習	グループごとに発表を行う為の準備。
		事後学習	①作業全体の流れと各工程ごとに配慮すべきポイント、改善・改良点をまとめる。 ②美術・芸術・造形に関する造詣を深める為に国立新美術館、東京藝術大学大学美術館などで興味のある展覧会を鑑賞する。